

# 仙台・盛岡からの 帰任者の皆さんへ スト破り集団＝「本部」革マル反動分子と決別し、 動労千葉の旗の下に結集しよう！



81.6.11  
No. 762

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六（公衆）品吉（22）七二〇七

\*\*\*  
 仙台・盛岡局からの帰任者の皆さん。  
 三年間の他局勤務、大変御苦勞様でした。  
 皆さんが仙台・盛岡局に配属されていたこの三年間、千葉局の状況とりわけ、動労をめぐる状況は、大きく変化しました。わが動労千葉一三〇〇組合員は、二年前の三月三十日、動労「本部」革マル分子の「排除の論理」にもとづく千葉排除・暴力襲撃・組合民主主義の否定の中で、動労の戦闘的伝統を守り、八〇年代に通用する自前の労働組合をめざして、分離・独立し、以前にもまして強固な団結をもって闘い抜いています。  
 今こそ、動労「本部」革マル分子と決別し、闘う動労千葉の旗の下に結集し、共に進もう。

## デッチ上げ動労「千葉地本」の 組織的ジリ貧は必至

国鉄三五万人体制攻撃の下で、全国的に新規採用が大巾に圧迫され、退職者の補充もままならない状況の中で、わが動労千葉の闘いと取り組みによって運転関係への本年度採用者（予科生）四〇名を、一般採用者も十一名を、それぞれかちとっています。そして、これらの新しい仲間には、すべて動労千葉に加入するか、もしくは国労に加入しているというのが実態です。しかし、「本部」派の組合に加入するという人は、誰一人としていません。それは、「本部」派のあまりに反労働者的な、スト破り集団という本質が見ぬかれていますからです。

しかも、「本部」派デッチ上げ「千葉地本」の内状は、組合員数わずか八〇名弱のうち、三分の一以上にあたる二八名もが「他局からの短期転勤者」でしめられ、このうちすでにこの三月には、四名がそれぞれの出身局へ帰任してしまっており、本年十月までに九名が、来年三月にはさらに十一名がそれぞれ帰任し、最後に残った四名も八三年中には帰任し、組織人員がとりわけ若い人たちが激減してしまっています。

しかも、残った「本部」派組合員の大部分も、むこう五年ぐらいの間に退職年令に達し、「本部」派の組織的ジリ貧は、必至であり、組織的展望など全くないのが実態です。  
 そもそも、「本部」派の中心人物で東洋大学出身の革マル分子である嶋田誠に至っては、職場で誰からも相手にされず、鼻つまみにされており、すでに東京の松戸電車区への転勤願いを出し、一日も早く千葉から逃げ出したいと当局にたのみこんでいるありさまなのです。

## なぜ圧倒的多数の組合員が、 動労千葉の旗の下に結集しているのか

動労「本部」革マル反動分子は、わが動労千葉に対し、ウソ八百のデマ宣伝をしつつ、動労千葉

結成以降二年余、暴力的襲撃と組合費を湯水のごとくつぎこむなど様々な動労千葉解体・破壊攻撃をくりかえしてきました。

にもかかわらず千葉局運転関係の圧倒的組合員は、断固として動労千葉の旗の下に結集し、闘い抜いています。  
 もとからの千葉の組合員を見れば、佐倉機関区においてさえも土屋粹らごく一部の組合員が「本部」派へと走った以外は、一三〇名近い圧倒的組合員は、すでに動労千葉佐倉支部に結集し闘っています。

さらに新小岩機関区では、「本部」派はわずかに二名のみであり、（動労千葉は一五一名）津田沼電車区では「本部」派は、嶋田誠というレッキとした革マル分子に引きづられた六名のみ（動労千葉一三七名）という状況が、それをはっきり証明しています。

それではなぜ動労千葉が全ての運転職場の圧倒的多数の組合員を組織することができているのか。動労「本部」派がなぜかくも極少数なのか。「本部」反動分子がデマ宣伝しているような、千葉は中野一派が暴力支配……というのがもし本当だとしたら、一体どうしてかくも多数の組合員が動労千葉の旗の下に現に結集しているのか説明もできないでしょう。

動労「本部」革マル分子の千葉地本排除・暴力的襲撃・組合民主主義の否定、さらに「貨物安定組宣言」「乗務員運用合理化への屈服と協力」など永年にわたる労働組合にあるまじき組織運営と運動の中で、「このままでは動労の運動は、だめになっってしまう」という動労千葉の役員はもとより全組合員の声が大きき力となって動労千葉結成へと進み、今日の強固な団結力を築いてきたのです。

仙台・盛岡局からの帰任者の皆さん。

皆さんの進む道は、ただ一つ。

動労千葉の旗の下に結集し、一三〇〇名組合員と共に闘い、前進しようではありませんか。  
 われわれは、心から皆さんの結集を呼びかけます。

す。